「寝屋川・船の旅」随行記

関西支部　池田　勝

「始めに」

大阪府の下水道普及率は概ね九〇%に達しており、生活環境・公共水域水質の改善に寄与してきた実績には多大なものがある。しかしながら他方において広範な下水道整備は、予測しえなかった負の効果をも、眼前に提示した。

詳細説明はせずとも、

その一は、都市域での自然の水面環境の減少

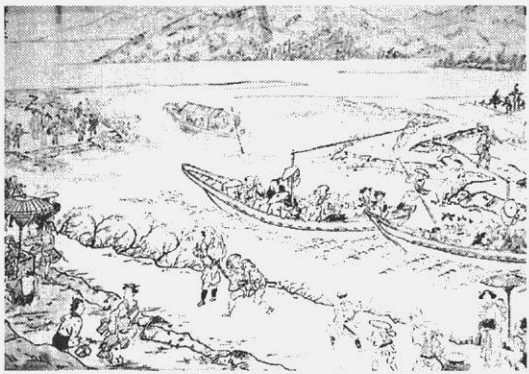
その二は、小河川・水路での干上がり現象

その三は、地下水位の低下

その四は、下水道の使命である河川等の水環境が潮待したほど良くなっていないこと。等である。

今回の実践活動は、東部大阪の総合治水を担う寝屋川水系にスポットをあて、これまでの40年に及ぶ下水道整備の努力の成果となるはずの水環境の改善が意のとおりになっていないその現状に対し

て、その原因の一部でも見つけ出したいとの思いを持って、直接、水上から検証することにあった。



野崎参り

「船上記」

今回の企画にご協力頂いた水系改修工営所の船舶は、乗船員を除く九名定員で、平成十六年七月三十日、午前と午後の二回就航をお願いし、十八名参加で予定した。

当日は、台風十号の北上、関東上陸の予報が一転、コースを西へ転じて近畿接近という、最悪の気象条件での船上行となった。

◎ここで、寝屋川水系流域約２６７．６km^2内には、大阪の特性の一つである中小企業が集中しており、また、四下水処理場と十か所の下水ポンプ場が設置されている。

その多くは合流式下水道として稼働している。

船上から、就航区間にある各種の吐口、合流河川等での水質状況を観察することとした。

第二寝屋川の城運橋浮き桟橋から乗船し、中浜下水処理場、森ノ宮清掃工場等の施設を眺めながら、一旦第二寝屋川を流下する。やがて大阪城を左に、ビジネスパークを右に見る景観は、思いのほか心なごむ風情であった。

寝屋川との合流点(いわゆる京橋口)を経て、自的の寝屋川本川を遡上すると今度は、ビジネスパークのかげから一瞬、大坂城を望む眺望に出会う。

ここは多分、カメラ好きにとっては絶好のシャッターチャンスである。

京橋口　ビジネスパーク

暫くは川幅六〇mを少し越える両岸に、新しいデザインの家屋が連たんする川筋の風景は、船上から十分楽しめることが喜しいが、大都市での洪水対策の困難さが改めて思い知らされる風景でもある。この付近では、スクリュウが巻き上げる波は予想に反して美しく、水質・水辺環境とも良好であった。

船上では、木村支部長の労作による資料が配布され、説明を聞きながらの水上行も、城北川を越えるころから、やがて強烈な下水臭に、これが本来の寝屋川の姿かと落胆しつつ沿岸を注視していると今福処理場が広大な敷地をもって迫ってきた。たまたま同乗しておられた大阪市OBの某氏によると、この臭気は工場排水を多量に処理している今福処理場が発生源であるとのことであった。西三荘水路を越え、古川との合流点付近では、やはり水質的には劣っている情景がみてとれた。

「ここで雑談」

下水道普及率が九〇%に成らんとしている状況で何故、河川の水質が良くならないのかという設問に対して、ある河川経験者は次のような印象を語っていた。

「下水道行政は、水洗化ばかりをPRしてきたので、その点は確かに良くなった。しかし、極端に

密集している市街地では、家屋構造上のやむをえない事情により、便所の水洗化は進んでも、台所排水は相変わらず水路等へ放流されているところがかなり残されており、特に古川沿いでは問題が大きい」と。

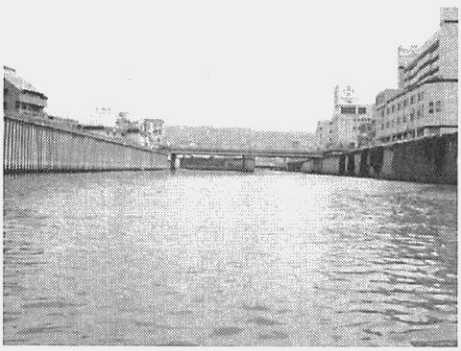
「船上記　再開」

中央環状線を越えて鴻池処理場をみるが、吐口は問題なかった。この付近では高い鋼製護岸ばかり、やはり都市河川の悩みを改めて感じた次第であった。

さらに上流（最終目的地点）の住道駅前大橋付近（恩智川合流点）にいたると水面にガスの噴出があり、乗船員によると「メタンガスの発生である」との話であった。

やはり、恩智川の影響が大きい様子が伺え、河川経験者が語った話ぶりが真実味を帯びてきた、船上からの印象である。

この企画の当初には、可能であるなら最終地点で接岸して、陸路で野崎観音まで歩いて「おそめ・久松のお墓参り」をし往時を偲ぶことができたらと考えたが、高い鋼製護岸ばかりはこれをゆるさなかったのが残念であった。



住道付近

「船上記総括」

過日、河川ボランテイアが主催された「寝屋川源流を探る」に、参加させていただいたとき、水量

は少ないとはいえ水質は極めて良好で、子供たちが川底まで下りて、網をもったり、砂を掘ったりしている場面に少なからず会った。
宇野代表の「河川が持つべき本来の姿は、これでなくてはならない。」との姿勢に対し、今回の姿は遠く及ぶべきもない。
又、下水道の最大の使命である家庭排水の完全なる収集・処理システムの一部に、思わぬ欠落があるとの指摘も、本当にありうるのだろうか。
この指摘は、石津川の水質調直を担当された方々からも聞かされたところであり、非常に気になっていた。
自分の目で、このことを確認しなければならないとの思いを強くもつことになってしまった。
気候が良くなれば、現職時代を思い起こし早々に踏査するつもりでいる。「大阪の川筋を桜並木で結ぼうよ。」との提案がなされている。
大阪の町を生み出した寝屋川を中心に据え、水路・陸路を結び「野崎参り」を復活できたら、、、、、、。

あまり要らぬことを考えずに、ここで終わります。